

松村看護専門学校  
学校評価運営委員会

学校運営評価委員会は、学校関係者3名及び学校職員3名を召集し、令和7年度松村看護専門学校運営評価結果及び事業計画結果に基づき学校関係者評価を行いました。その結果を以下の通り報告します。

1. 日時

令和8年4月17日(金)13:30～14:30

2. 場所

松村看護専門学校 6階 演習室兼視聴覚室

3. 学校関係出席者

佐藤るみゑ	前松村看護専門学校学校長
遠藤利美	舞子浜病院看護部長・実習施設看護部長
吉田知弘	公益財団法人磐城済世会法人事務局次長

4. 学校職員出席者

松村耕平	学校長
阿部真弓	管理部責任者
内田日登美	副学校長兼教務部責任者

5. 委員会次第

- (1) 開会
- (2) 学校長挨拶
- (3) 令和7年度学校評価報告  
学校運営評価結果及び授業評価結果報告  
事業計画評価結果報告
- (4) 質疑応答・意見交換
- (5) 学校関係者による評価
- (6) その他
- (7) 閉会

## 6. <教育理念>

本校は、設置母体である公益財団法人磐城済世会の使命を基盤として地域に根ざし、地域に貢献できる看護師の育成をする。

### <教育目的>

生命の尊厳を尊重する豊かな人間性を育み、倫理観を備えた看護の専門職に必要な知識・技術・態度を習得させ、地域のニーズに貢献できる看護師の育成を目的とする。

### <教育目標>

1. 人間の生命の尊厳を尊重し、統合された存在として幅広く理解する能力を養う。
2. よりよい人間関係を築く能力を育み、あらゆる人に対応できる豊かな人間性を養う。
3. 倫理観を備えた専門職業人としての責任ある行動がとれる能力を養う。
4. あらゆる健康状態にある人々へ科学的根拠に基づいた臨床判断を行い、さらに看護実践できる基礎的能力を養う。
5. 保健医療福祉チームにおける看護の役割を認識し、多職種と連携、協働できる基礎的能力を養う。
6. 看護の本質を理解し、自己の看護観を培う。
7. 地域の特徴および暮らす人々を理解し、地域に貢献できる能力を養う。
8. 専門職業人として自ら学び続ける能力を養う。

## 7. 令和7年度 事業計画

### 基本方針

担当講師と連携し講義内容の充実を図り、財団および地域実習施設の協力を得て臨地実習を充実させ、質の高い看護教育を行い財団および地域に貢献する。

### 目標・計画

1. 学生を確保する。
  - 1) 4月に社会人枠・入試回数等含め令和8年度の入学募集方針を明確にする。
  - 2) 高校訪問、進路説明会、出前講座等への参加を積極的に行いPRとともに必要な情報を得る。
  - 3) 医療情報システム課との連携やSNSの活用により、随時学校の情報を掲示する。
2. 教職員の働く環境を整える。
  - 1) ワークライフバランスが両立できるよう職員間で協力する。
  - 2) 持ち帰り仕事を減らすために、実習担当期間は、指導者と調整して帰校時間を設け学内での教員業務を行う。

3. 教職員の質の充実を図る。

- 1) 教職員がキャリア別ラダーに沿って目標を持ち、先輩のアドバイスを得ながら達成する。
- 2) 教職員が研修を受講できるよう協力する。
- 3) 授業におけるICT活用を他校や研修で学び、それを全員で共有し、実践方法を長期休暇の教務部会で作成する。
- 4) 教員の定着により専任教員を増やす。

4. 教育内容の充実を図り、国家試験合格率全国平均以上を目指す。

- 1) 講師会、臨地実習協議会、臨地実習指導者会において意見交換をし充実を図る。
- 2) 国試対策担当教員の企画をチューター制、ゼミなどを活用し、学生に合わせた指導を計画的に実施する。
- 3) 看護師国家試験出題基準をふまえ、講義や実習指導等ができる。

5. 危機管理マニュアルに沿って安全を確保する。

- 1) マニュアルの周知徹底を図り、安全を確保する。
- 2) 冬季教務部会でマニュアルを職員全員で再確認し、修正する。(年1回点検)

6. 新カリキュラムの評価を行い、カリキュラムの充実をはかる。

- 1) 講義・臨地実習・教科外活動の評価、見直しを行い次年度に活かす。
- 2) 上記を行う際、非常勤講師や臨床の意見・学生アンケートを活かす。

8. 学校運営評価項目ごとの意見など

I 教育課程・教育活動

学生レベルに合わせた学習支援の平均点が低い傾向にあるが、今年度は学年全体・学生個々に応じた学習支援、模試、ゼミなどが考えられていると思う。カリキュラム全体は授業評価などにより質の担保ができていると思う。

II 学生生活への支援

全体的に平均点が下がっているが、学力面・経済面・家族背景など多様な学生がおり、支援の限界もあるため奨学金制度の紹介やスクールカウンセラーの受診を促す、個別面接相談など現状継続で様子を見ていく。

学力面での支援はIの通り。

III 入学・卒業

入学生の確保において、社会人入試、試験科目、願書受け付け期間など毎年見直しをしているのは適切である。

高等教育修学支援制度の認可を受けることにより、応募が増えることを期待したい。

設置母体だけでなく、他施設の卒業生の動向を積極的に情報収集しカリキュラムに反映させるとよいと思う。

IV 学校経営

適切に行われている。

V 学校運営・財政

適切に行われている。

VI 施設・設備

建物が老朽化しているが、安全面の点検は行われている。

VII 教職員の育成

授業評価はよく行われているが、看護研究においてはフィールドの確保という点で、臨床を活用するとよいと思う。

VIII 地域との連携

コロナ渦が過ぎ、地域活動が以前の状態にもどってきているのはよい。

遠藤:財団のメリット

学生にとっては選択しが増える 応募が増えるのではないか  
県内の学校は認可を受けている 2校のみが未

遠藤:高校から選択

地域に選ばれる学校 就職のしぼりがない

入学制の確保

介護フェア 救急フォーラム:いわき市病院協議会が主催している  
コラボして中学生向けのイベントを行ってもよいのではないか

